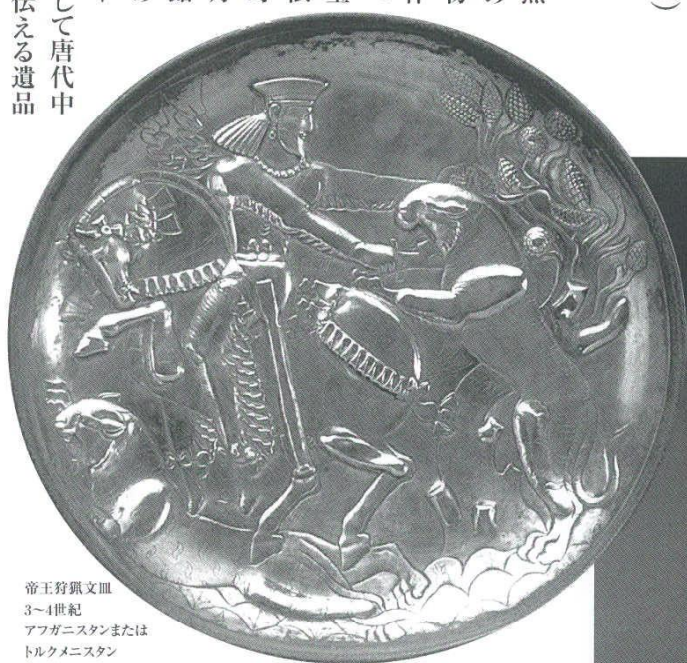


「シルクロードの きらめき

—正倉院文化の 源流を尋ねて—展

二〇〇六年七月一日(土) —
十二月十七日(日)

シルクロードの一つの終着点である正倉院は、はるか西方の国々や中国から伝来した宝物や、その影響を強く受けて作られた品々に満たされています。当時の粋を集めたこれらの宝物は《祖国》の歴史・文化を伝える貴重な品々であると同時に、東西交易の証しです。七月一日から始まる展覧会では、館蔵品の中から、正倉院宝物の源となったササン朝ペルシア(イラン)、ソグド(ウスベキスタン)、そして唐代中国の文化のきらめきをいまに伝える遺品を展示し、シルクロードを正倉院へ向けて東流した文化の一端を垣間見ます。主な展示品はササン朝ペルシアのコイン、銀器、ガラス器、ソグドの錦裂、銀器、唐代の古



帝王狩獵文皿
3~4世紀
アフガニスタンまたは
トルクメニスタン



宮女俑 8世紀 中国

裂、俑、鏡、伝法隆寺古裂ほか約百点を
予定。

本館二階では、平山郁夫シリーズ制作
「大シルクロード」の大作を中心に展示。

【会場】 本館1階+別館2,3階
【開館時間】 10:00~17:00(入館は16:30まで)
【休館日】 火曜日(祝日の場合は開館します)
7~9月は無休
【入館料】 一般1,000円、高校生・大学生700円、
小・中学生500円(毎週日曜日は無料)、
障害者 無料(介護者は1名まで500円)
※70歳以上は100円割引
※団体(20名以上)は100円割引

【主催】 (財)平山郁夫シルクロード美術館
山梨日日新聞社・山梨放送・絲綢社
山梨県・山梨県教育委員会、
北杜市、韮崎市、南アルプス市、
甲斐市、朝日新聞社、
NHK甲府放送局、
テレビ山梨、エフエム富士、
平山郁夫美術館
【協賛】 キリンビール、ANA

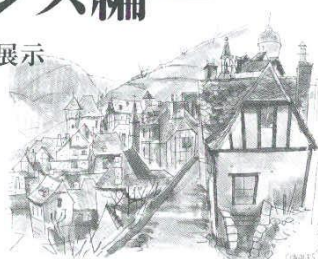
平山郁夫欧州写生絵巻—フランス編—

2006年10月4日(水)—12月17日(日) 本館1階コーナー展示

*12月18日~3月初旬まで冬季休館



した息遣いまで鮮やかに蘇ってきます。
今回の展示では、国際都市パリだけを見て国を判断できないと訪れた山奥の村や田園風景、中世の家並みなど、心の詩情に溢れた早春のフランスの旅をお楽しみ下さい。



五カ国歴訪の間、毎日のように描き続けられた絵巻は、街の佇まいや各地の風土を今に伝えるだけでなく、新しい文化に触れた若き画家の高揚

今秋は、昨年ご好評をいただいた「イタリア・ローマ編」に引き続き、欧州写生絵巻のうち「フランス編」を公開します。
時に平山郁夫三十二歳。第一回ユネスコフェローシップによる半年間のヨーロッパ留学は、西洋文化に圧倒されつつも日本文化のすばらしさを再認識し、後年シルクロードへ目を向ける契機ともなった旅でした。

賛助会のご案内

賛助会は美術館の活動を支援するとともに会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

なお、皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会、国際交流、シルクロードに関する研究助成等に使用されます。

1) 年会費

個人会員	1口	10,000円
家族会員	1口	15,000円
法人会員	1口	100,000円

年会費には消費税が含まれます。口数に制限はありません。家族会員は2名様までとします。ただし、会費は寄付免税の対象となっておりませんので、あらかじめご承知おき下さい。

2) 会員募集の期間

会員の申し込みは随時受け付けております。会員証の更新は毎年7月とし、12月から3月までにご入会の方は、初年度の年会費は半額となります。また4月～6月のご入会の方は翌年6月まで有効です。

3) 会員の特典

- 会員証を発行します。
 - ・ 個人会員 1枚
 - ・ 家族会員 2枚
 - ・ 法人会員 5枚
- 入館料は無料となります。
- 展覧会図録がお受け取りになれます。
- 美術館ニュースをお届けします。
 - ・ 個人会員 1部
 - ・ 家族会員 1部
 - ・ 法人会員 5部
- 特別内覧会にご招待します。
- 当館主催のイベント、講演会、講座へ優先的にご案内します。
- ミュージアムショップにて会員割引が受けられます。



4) 申込方法

所定の申込みはがきに必要な事項をご記入のうえ、事務局にご郵送いただき、所定の銀行または郵便局の口座に会費をお振込みください。美術館受付にて直接お申し込みいただくこともできます。入会手続きが完了し次第、会員証をお届けします。

今夏より本館北側(JR側)
に新館の建築がはじまります。
リニューアルをお楽しみに!



財団法人
平山郁夫シルクロード美術館

■ イベント情報《染色体験教室》

季節ごとの植物を用いた染色を楽しく体験できます。昨年の例では藍の生葉・紅花・タマネギ・栗のイガなど(季節によって用いる素材は変わります)。今年は藍の生葉染めは8月、9月の教室でご用意します。

参加をご希望の方は、事前に美術館までお問い合わせください。お待ちしております。

講師: 中村まり子(染色家)

日程: 第1回 7月1日(土) 10:00-16:00

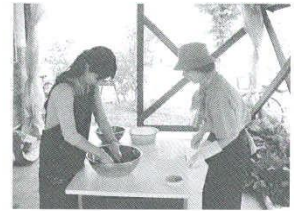
第2回 8月中(日時未定)

第3回 9月中(日時未定)

場所: 陶芸体験館

(平山郁夫シルクロード美術館正面)

料金: 3,000円(シヨールなど材料費含む)



■ 小中学生のための総合学習のお知らせ

当館では昨年に引き続き、本年も小中学生の総合学習の場として休館日に美術館を開放する取り組みを行っていきます。世界一級美術品に身近に触れることで、児童・生徒が自らの感性を磨く絶好の機会になることでしょう。これまでに2つの小学校がこの取り組みを行っていましたが、学校での事前学習や学芸員から説明を受けることで、諸国の文化や歴史に関心を抱ききっかけとなったようでした。当日はユニークな発想の作品が数多く制作され、先生も児童の新たな側面を発見して驚いていました。

実施時期: 3～6月、10～12月の火曜日(休館日)

*資料のご請求、ご質問は美術館まで。



泉小学校6年生の創作風景と完成作品



■ 平山郁夫画伯の動向

*2005年秋より、東京、奈良、京都、九州国立博物館の特任館長として、文化、芸術の保護、育成に尽力されています。シルクロード美術館も皆様にご理解を戴きながら、その理念を支えるべく、更なる活動に力を入れていきます。

*2007年3月より、およそ45日間の予定でアメリカ・ハンフォード(カリフォルニア近郊)の日本美術研究所のギャラリーにて、絵画の展覧会が開催される予定です。

■ 賛助会のご案内について

7月からは賛助会の新年度になります。現在、会員の方には案内が送付され、更新の受付が始まっています。更新をしていただける方は、お手続きをよろしくお願い致します。また、新規の会員も募集しておりますので、美術館受付にお問い合わせの上、お申し込みください。会費は研究助成、美術館ニュースの発行、賛助会の運営などの費用にあてていく方針です。

なお、賛助会にご入会いただいた方で、お名前のご掲載をご許可いただけた方について、次回の号で、順次ご掲載させていただく予定です。あらかじめご了承ください。

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第4号 平成18年6月25日発行

発行/財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6 Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>

私の正倉院

館長
平山美知子

「正倉院」という言葉は私に多くの事を思い出させます。私がまだ小学生だった頃、父がモーニングを着て、正倉院を拝観できると緊張した顔で出掛けていったことを覚えています。当時、正倉院は秋の虫干しの頃に特別の人だけが拝観を許され、一般人は見られなかったということです。母は父が正倉院を拝観できることをとても誇りに思っていたようです。母は、私と妹の二人の娘を持っていることで、着物のことなどいろいろな配しているようでした。女の子はどんなところに嫁に行くか分からないから、いざという時に恥をかかないようにと、時々呉服屋を呼んで娘の着物をあれこれ見立てているようでした。

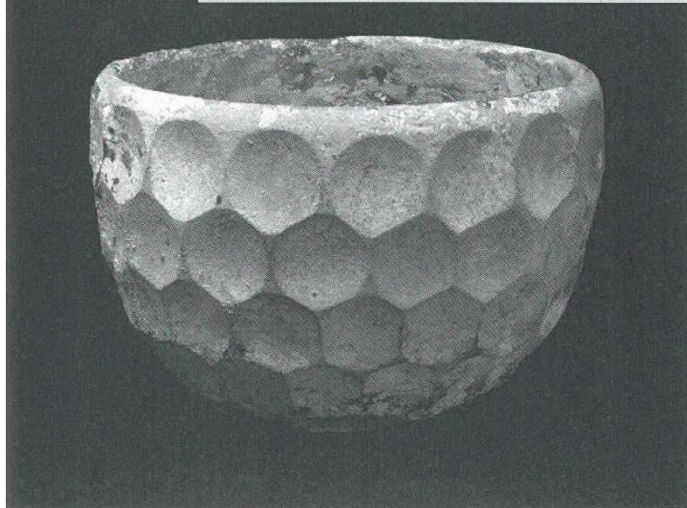
第二次大戦の昭和十八年頃だったと思いますが、母が正倉院風の柄の

帯が手に入ったと喜んでいたので思い出します。橙色の地に金の総柄を織り出した立派なものでした。娘は二人いるのもう一本同じようなものを探したようですが、日本の戦局も怪しくなった頃で着物どころではなく、母のいう正倉院風の柄の帯は一本しかありませんでした。

長兄に立派なお嫁さんが来ました。義姉は帝室博物館に親戚がいるから私を時々博物館に連れて行ってくれました。小林古径、安田靉彦、前田青邨、横山大観といった方々の日本画を見て、絵描きになりたいと思っ



右/錦靴下
下/切り碗



たのもその頃だったと思います。

博物館の売店にはほとんど何もなく、二冊畳紙に入った大きな「御物上代染織文」という本が残っているだけでした。私は母があんなに正倉院に纏わる紋様に執着していたのですから、その本が欲しいと思いました。父に「本を買いたいのでお金を下さい」と言いました。父は「それが勉強のたしになるなら」と百五十円を出してくれたので私はそれを買うことが出来ました。

それからは空襲警報が鳴るとその本だけをかかえて防空壕に飛び込み

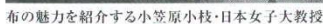
ました。空襲が激しくなり、宮城県へ疎開する時も持っていたので、畳紙はボロボロになりました。

終戦の翌年昭和二十一年の秋、正倉院が始めて奈良国立博物館で公開されることになり、私は二人で前日から奈良へ行ったのです。夜中から博物館の前に行くと、もう十数人が待つていました。夜は寒く、あたりから木切れを拾ってきて焚火をしたりして、朝十時の開館を待ちました。夜が明けてくると、もう長蛇の人が並んでいました。今まで一般には見ることが出来なかった正倉院が見られるということは、自由の象徴のように思えたのです。その後、秋の正倉院展には出来る限り見に行くようにしております。その二日が、私が自由を味わう日なのですから。

結婚後二十数年して、イランの商人よりカットガラスの碗が持ち込まれました。それは小振りですが、ティナ(表面に付く酸化物)がびっしりついていて、立派な正倉院のものとは比べ物にはなりません。それでも正倉院と同類のものが入手できたことは喜びでありました。それからしばらく連珠紋、連珠紋と心で唱えていると、そのうち連珠紋の錦も少し入って来ました。母もきつと喜んでいると思います。



煌めく布」の世界



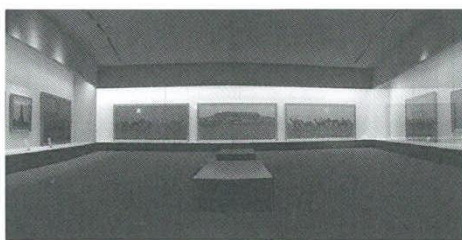
煙めく布々金更紗と金糸織」
米館者には特に女性が多く、金
あやなすきらびやかな美しさ
堪能いただいております。

く内覧会では、当展覧会の監修小笠原小枝（おがさわら さえ）先生に展示解説があり、王毅（おうぎ・駐）国大使をはじめとする列席者々は熱心に耳を傾けていました。

そこはまさに
シルクロード
—平山郁夫展示室—

本館では、六月二日よりラクダの隊商を描いた新作『楼蘭遺跡を行く 日・月』の二点を公開しています。

二階展示室全体を占める連作『大シルクロード』も、いよいよ七点が揃いました。中央に置かれた長椅子に座ってひとときの「シルクロード」の空気浸みてみてください。



■展覧会報告

『平山郁夫』展 於・岡島

二〇〇六年二月七日(土)～二月十六日(月)

『平山郁夫シルクロード美術館』展 於・日本橋高島屋・京都高島屋

二〇〇六年二月十八日(水)～三十日(月)／
二月二日(木)～七日(火)

■『煌めく布』展 関連講演会報告■

美術館の冬季休館中に、全国三箇所で開催を行いました。

岡島百貨店（山梨県・甲府）の設立七十年を記念して開催された特別企画『平山郁夫』展では、平山郁夫の素描作品を中心にシルクロード各地の風景を展示。甲府市中心部ということもあり、なかなか美術館まで足を運べない多くのお客様にご来場いただきました。また日本橋・京都の各高島屋で行われた『平山郁夫シルクロード美術館』展では、平山コレクションの優品を一堂に集め、美術館の展示とはまた一味違った雰囲気の中で、シルクロードの文化をご鑑賞いただきました。

「煌めく布」展開連講演会の第二回目として、四月八日(土)、本展覧会を監修された小笠原小枝(おがさわらささこ)先生による「煌めく布の世界」祈りと装いの『ぬの』と題する講演会が行われました。会場は美術館別館・二階展示室。この展覧会を少しでも楽しく観ていただくために、とおっしゃる先生のお話は、「帛(はく)」「布(ふ)」から始まり、インドとインドネシアの「更紗(さらさ)」「印金(いんきん)」「金糸(きんし)」のそれぞれ対比で進み、わかり易く興味深いものでした。限られたスペースではあっても煌めく多くの布に囲まれながらの解説は大変好評でした。



2006年
年間スケジュール

7.8.9月無休

「シルクロードのきらめき」展スタート(～12/17)

6							7							8						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3					1						1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31		
							30	31												

展示替えのため閉館

★7/1(土)染色体験教室
(午前・午後)

★染色体験教室
(8月中・日程未定)

9							10							11							12						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2			3	4	5	6	7				1	2	3	4						1	2
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30

★染色体験教室
(9月中・日程未定)

「歌州写真結算」スタート
(～12/17)

「山梨 県民の日」
県民に無料開放

31 翌年3月初旬まで
冬期休館

また、五月十三日(土)に第二回目として当美術館館長(平山美知子)の講演会「金更紗の魅力」が本館二階展示室にて行われました。平山コレクションの成り立ちを自身の様々な人々との出会いから振り返り、多くの著名な方々とのエピソード等も織り交ぜながら紹介するものでした。館長自身「新しい目が開かれていった」という時代と重ね合わせ、よりコレクションの興味が高まる講話でした。